



令和 2 年度
那覇市若狭公民館
事業報告



Ⅱ 令和2年度若狭公民館事業目次

- 1 学習風景（写真）・・・・・・・・・・・・・・・・
- 2 成人一般対象事業
 - 〔1〕 市民講座
 - ◇ トークイベント政治ってなんだろう・・・・・・・・
 - ◇ リッカ！ヤールーキャラバン！オンライン研修会・・・・・・・・
 - ◇ 南の島の南極教室オンライン2020・・・・・・・・
- 3 高齢者対象事業
 - 〔1〕 高齢者学級
 - ◇ オンラインデビュー講座・・・・・・・・
- 4 青少年対象事業
 - 〔1〕 放課後子ども教室
 - ◇ 若狭公民館地域子ども教室「ちむどんどん太鼓」・・・・・・・・
- 5 家庭教育事業
 - 〔1〕 家庭教育学級
 - ◇ 子どもの性同一性障害に向き合うために・・・・・・・・
 - 〔2〕 乳幼児学級
 - ◇ プレママ・パパ応援学級オンライン・・・・・・・・
- 6 その他の事業
 - 〔1〕 地域連携事業
 - ◇ なは防災キャンプ@てんぶす那覇・・・・・・・・
 - ◇ なは防災キャンプ'20講演会 地域と防災 | 地域・行政・専門機関との連携に向けて・・
 - ◇ なは防災キャンプ'20 冬 講演会・・・・・・・・
 - ◇ なは防災キャンプ'21 春 研修会・・・・・・・・
 - 〔2〕 提案事業
 - ◇ 「アーティストと開発する社会教育プログラム」・・・・・・・・
 - ◇ オンライン学習支援プロジェクト・・・・・・・・
 - ◇ オンライン学習支援フォーラム・・・・・・・・
 - 〔3〕 学社連携事業
 - ◇ 出前講座ぼうさい体験会・・・・・・・・
- 7 成果発表会・・・・・・・・
- 8 新型コロナウイルス感染症拡大を鑑み中止になった事業・・・・・・・・

2 成人一般対象事業

〔1〕 市民講座

トークイベント政治ってなんだろう？

趣 旨：令和 2 年 6 月 7 日に投開票が行われる沖縄県議会選挙を前に、小中高生に政治についてもっと身近に関心を持っていただくことを目的としたオンライントークイベントを開催する。沖縄県議会選挙那覇・南部離島選挙区の予定候補者に対して、小中高生が政治や選挙についての素朴な疑問を投げかけ、候補者自身に回答いただく。またその様子オンライン同時配信することにより、有権者に対しても各候補者の政策や人となりのついて知っていただく機会とする。

期 日：令和 2 年 5 月 23 日（土）15：00～16：30

場 所：配信オンライン（zoom ミーティングの様子を YouTube 生配信）※それぞれの事務所または自宅

対 象：興味のある方

受講料：無料

定 員：なし

参加述べ人数：：200 名（同時視聴者数）、累計視聴回数 1400 回（令和 3 年 3 月末時点）

出演者：那覇市内の小中高生 6 名、沖縄県議会選挙予定候補者 10 名

司会：新田繁睦（Voters Net Okinawa 代表）

共催：那覇市立大名児童館

協力：Voter's Net OKINAWA

配信：若杉福祉会 YouTube チャンネル (<https://youtu.be/-LEXrkzyShQ>)

回	日 時	内 容	出演者	人数
1	5 月 23 日	県議の役割と政策 子どもたちからの質問・回答	那覇市内の小中高生 6 名、沖縄県議会選挙予定候補者 10 名	同時視聴 200 人



ブログ記事 QR

（参加者の声）

- ・議会私達の大変なことを決める場、若い世代と一緒に議論する政治家の皆さんの姿勢に若者がもっと政治に関心を持たないといけないと感じた（参加した高校生）
- ・政治家は怖いイメージがあったが、私たちと同じような生活をしていることが分かり親近感が湧いた（参加した中学生）
- ・家族で見ました。講座終了後、子どもと政治や選挙の話ができてよかった（視聴者）
- ・議員さんたちは子ども向けに優しい言葉で話してくれたので、政策もわかりやすくその人となりがわかって投票の参考になった（視聴者）

（まとめ）

新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言もあり、各議員とも選挙前の活動がしばらく状況があった。有権者としても各候補者の政策を知る機会が少なく、投票への機運が高まらないなか、オンラインを活用した取り組みにより、また報道機関等にも取り上げられたことにより、選挙啓発の一躍を担うことができた。

あらためて将来の有権者となる児童生徒を対象とした主権者教育の必要性を感じるものとなった。

リッカ！ヤールーキャラバン！研修 オンライン研修会

趣 旨：「リッカ！ヤールーキャラバン！」の実践的なノウハウや地域の防災訓練への活用方法を知ってもらい、地域防災の担い手を育成することが本研修の目的。

期 日：令和2年9月5日（土）

時 間：14：00～16：00

場 所：若狭公民館から会議アプリ ZOOM を使用して配信

対 象：防災に興味のある方（PTA、まちづくり協議会、子ども会など）

受講料：無料

定 員：20人

申込人数：17人

参加述べ人数：19人

講 師：宮城潤 佐藤純子

回	日 時	内 容	講 師	人数
1	9月5日 14：00～16：00	楽しい防災訓練イベント「リッカ！ヤールーキャラバン！」を開催するための研修会をオンラインで開催。 イベント主旨に、開催に必要なポイント、防災プログラムの紹介をクイズや映像を使って行った。	宮城潤 佐藤純子	19人



（参加者の声）

- ・防災を伝えることの大事さ、伝えることの工夫が素晴らしいと思った。
- ・自分たちで責任を持って運営したり工夫したりすることを学んだ。
- ・大きな取り組みを地域に合わせた内容にカスタマイズして浸透させていること、素晴らしい。
- ・企画の工夫の仕方や地域の方、それぞれの得意分野を持ち寄って、よい講座にする考え方、動き方など参考にしたいことがたくさんあった。自分の地域でも生かしたい。
- ・子どもに楽しく防災について学んでもらう仕組みやそこに関わる大人たちの意識の向上、継続の重要性を知った。
- ・素晴らしい取り組みだからこそ、沖縄県各地で開催してもらいたい。
- ・災害の地域に興味があった。
- ・研修会に参加することで、意義や目的、大事にしていることなど学べてよかった。今後も防災について学んで啓発活動を行っていきたい。
- ・宮城さんの「協力するという経験を持つ、力を合わせる」という言葉が印象に残った。
- ・リッカ！ヤールーキャラバン！に参加したい！

南の島の南極教室オンライン2020

趣 旨：南極観測や観測隊員の生活などについて知ることで、南極を身近に感じ環境保全に関心を持つようになる。また、地球規模の視野を持って思考し行動するきっかけとなることを目的とする。

期 日：令和元年10月25日（日）

時 間：14:00～16:00

場 所：若狭公民館から会議アプリ ZOOM を使用して配信

対 象：那覇市在住在学の方、関心のある方

受講料：無料

定 員：なし

申込人数：55人

参加人数：54人

講 師：南極越冬隊 OB 10名

学習プログラム

回	日 時	内 容	講 師	人数
1	10月25日	南極観測や現地での生活についての講話。 南極〇×クイズ・南極の氷が解ける音を聴く。	南極隊 OB 10名	54人



（参加者の声）

- ・南の島で南極教室ってユニークですね、いつも羨ましく思っていました。今回 zoom で参加させて頂け感謝しています。有難うございました！
- ・南極に興味を持つきっかけになりました。隊員の方々の暮らしや基地内部が少し垣間見れて面白かったです。
- ・貴重なデータや動画像をありがとうございました。ぜひまたこのようなオンラインに参加したいです。小学2年生の息子は、南極大陸に住む動物の写真や動画がたくさん見られると思っていたようで、動物がもっと見たいと話していました。〇×クイズは楽しんで参加していました。興味のある講座の際は、また参加させていただきます。
- ・南極での活動、研究が、地球の環境を知ることにもなる・・・50年後の地球とのかかわり方などを考えることができました。南極のお話は、環境教育に繋がりますね。
- ・未来を担う子供たちに南極を知ってもらおう良い機会。

（まとめ）

今年度は対面での講座ではなくオンラインでの開催となったが、オンラインの利点を活用し日本各地にいる南極 OB、本年11月出発の62次隊の方を講師に招くことができたため、それぞれの講師の専門分野で南極に関して幅広く講演していただき学術的なことも学べ、〇×ゲームを取り入れ参加型にし参加者の反応を見ながら講座を行ったことで参加者の興味・関心をさらに高めることができ、子ども～大人まで楽しめる講座となった。

3 高齢者対象事業

〔1〕 高齢者学級

オンラインデビュー講座

趣 旨：スマートフォン・タブレットを持っているが使いこなせない高齢者を対象にLINE（ライン）＝（利用者同士で、無料でメッセージのやり取り、音声通話、ビデオ通話ができるもの）の基本的な操作方法から応用までを学んでいただき、コロナ禍でなかなか会えない遠くにいるご家族とのコミュニケーションや実生活に役立ててもらおう。

期 間：令和2年9月29日、9月30日、10月1日 全3回

※8月は緊急事態宣言による休館のため中止。

時 間：14：30～16：30

場 所：那覇市若狭公民館 第1研修室

対 象：那覇市在住・在勤の60歳以上の方で全3回通して参加できる方

受講料：無料

定 員：15人

申込人数：23人

参加述べ人数：44人

講 師：房前 三男

学習プログラム

回	日時	内容	講師	人数
1	9月29日	スマホ操作の基本、プラスメッセージの活用方法、インターネットでの検索方法	房前三男	14
2	9月30日	アプリの検索方法、LINE登録・友達追加、LINEのトークの活用方法	房前三男	15
3	10月1日	LINEのビデオ通話、トークで写真を送る・保存する、スマホに共通する操作、閉講式	房前三男	15



（参加者の声）

- ・ メールの方法、絵文字、ビデオ通話等 今まで出来なかった事ができるようになりました。
- ・ スマホに関心を持てた、自由に使用できるように頑張りたい。
- ・ 授業中は分かっているようですが、まだ良く理解が出来ない。まだ講座を受けたいと思っています。
- ・ 先生はていねいにゆっくりしたお話でわかりやすくとても勉強になりました。スタッフの皆さまわかりやすくていねいに教えていただき、みなさん優しく本当に感謝しております。ありがとうございます。
- ・ お友達にも講座を紹介したいです。
- ・ また機会がありましたら参加したいです。

（まとめ）

3日間を通して皆さんとても熱心に講座にご参加いただき、スマホを使いこなしたいという熱意を感じた。「今までできなかった事ができた」「知りたかった機能についてわかった」という声もあり、コロナ禍でなかなか会えない家族や友人とのコミュニケーションツールとしてスマホを活用するきっかけづくりとなった。

4 青少年対象事業

〔1〕 放課後子ども教室

若狭公民館放課後子ども教室「若狭ちむどんどん太鼓」

趣 旨： こどもたちの安心安全な放課後の居場所づくりとエイサーをとおして郷土の文化・芸能にふれる機会とする。また、公民館を利用し地域の方々の協力を得て活動することにより地域社会の一員として意識し、主体的に地域づくりに参画できる人材になることを目的とする。

期 間： 令和2年4月1日～令和4年3月31日

(練習日) 6月～7月毎週月・木曜日 / 10月～3月毎週火・金曜日

時 間： 17:00～18:30

場 所： 若狭公民館 第1研修室または3階ホール

対 象： 近隣在住または在学の幼児～高校生

登録児童：8人

参加延べ人数：269人

指導者：岸本麗子（若狭1丁目自治会会長/若狭小学校区まちづくり協議会子ども育成部長）

サポーター：池城あかね（保護者）

【練習日】

月	内 容	参加人数	時間数
4月	新型コロナ感染拡大防止のため活動休止 (公民館臨時休館)		
5月			
6月	活動日(3回)	14名	4.5時間
7月	活動日(4回)	20名	6時間
8月	新型コロナ感染拡大防止のため活動休止 (公民館臨時休館)		
9月			
10月	活動日(9回)	56名	13.5時間
11月	活動日(7回)	39名	10.5時間
12月	活動日(7回)	34名	10.5時間
1月	活動日(6回)	29名	9時間
2月	活動日(7回)	34名	10.5時間
3月	活動日(3回)	43名	9時間



(まとめ) 今年度はスタート時点からコロナ禍で活動に制限があり企画していた「エイサー体験会」や例年出演しているイベントが全て中止となりました。そこで、これまでの復習の機会としてエイサーの基本動作や細かい動きを再確認するための練習をしてきました。上級生(先輩メンバー)が後輩メンバーをサポートできる体制を整え次年度にはメンバー募集をする予定です。

5 家庭教育事業

〔1〕 家庭教育学級

子どもの性同一性障害に向き合うために

趣 旨：近年、「LGBT」や「性の多様性」という言葉を耳にすることが増えた。しかしその一方で、その意味をきちんと理解している人は少ないのかもしれない。性同一性障害（以下、GID）は医療的ケアが必要であるにも関わらず、そのことを理解し GID 当事者が置かれている現状を知る機会は少ない。本講座では、教育現場や就労問題における調査から見えてくる現状や GID 当事者の声をきくことで、どのように寄り添い、“自分らしく生きていける社会”を築いていくのかを考える機会とする。

期 日：令和2年7月12日（日）

時 間：14：00～16：00

場 所：那覇市若狭公民館 第1研修室

対 象：那覇市在住・在勤・在学の方、関心のある方

受講料：無料

定 員：15人

申込人数：15人

参加述べ人数：14人

講 師：砂川 雅

回	日 時	内 容	講 師	人数
1	7月12日 14：00～16：00	教育現場や就労問題における調査から見えてくる現状を知り、さらに当事者の声をきく。	砂川 雅	14人



（参加者の声）

- ・当事者の方々がツライ思いや困っていることがあるというのはわかっていたつもりだったけど、考えていたよりも、もっと細かいところにまで気をつけないといけないと思った。もっと自然にみんなが生きられるように、自分ができそうな事を考えて、まずは自分の周りからでもやっていこうと思いました。
- ・砂川さんの様な活動を知りませんでした。その様な方のおかげで社会が少しずつ変化していく様で嬉しく思います。
- ・学校現場の理解が最も大切だと考えていたが、家庭も。就労に関する課題が切実だと感じた。

（まとめ）

性同一性障害（GID）に焦点をあてた本講座では、家族や友人関係、学校、職場などあらゆる場面で辛い思いをしている当事者の現状を理解する時間となった。調査から見えてくる社会の状況や当事者の体験を知ることが、他者に寄り添うことにつながり、さまざまな人が“自分らしく生きやすい社会”を築くことに繋がると感じた講座となった。

5 家庭教育事業

プレママ・パパ応援学級

趣 旨：新型コロナウイルス感染症の影響で産婦人科への検診をパートナーが同伴できなかつたり、プレママたちの交流がなくなったり、出産後の面会時間制限があつたりなど、第1子を迎えるプレママ・パパが不安を抱えたまま出産を迎えたりする現状がある。オンラインで講師からの講和を受けながら、プレママ・パパの不安や情報を共有でき、出産が楽しみになるようにすることを目的とする。

期 間：令和2年12月6日（日）、13日（日）、20日（日） 全3回

時 間：11:00～12:00

場 所：若狭公民館から会議アプリ ZOOM を使用して配信

対 象：那覇市在住、在勤、在学のプレママ・パパ

受講料：無料

定 員：15組

申込数：5組

講 師：百名 奈保（助産師）、上原 勇人（理学療法士）、大城 ゆか（栄養士）

学習プログラム

回	月日	内容	講師	人数
1	12月6日	妊娠中～産後 ママと赤ちゃん、パパのこと♪	百名奈保（助産師）	5組
2	12月13日	産後に訪れる身体の不調の知識とケア	上原勇人（理学療法士）	5組
3	12月20日	ママの元気を応援する栄養について	大城ゆか（栄養士）	5組



（受講者の声）

- ・出産後は、しっかり元の体重まで戻したいので、産後のケアをしっかりしたい。
- ・産後のケアの仕方、今、体に必要な栄養など学ぶことができた。

（まとめ）

コロナ禍の中、プレママ・パパさんの交流がうまくできない、産婦人科の定期健診にパートナーが付き添いできない現状。3密を避けるため、どのような講座ならプレママ・パパが参加しやすいのかを職員で話し合い、講座を組み立てた。3回の講座を通して、助産師・理学療法士・栄養士の3名をオンラインにお招きしての講座を行なった。今後は講座を通して、学んだことをぜひ生かしてもらい、ママさん・パパさんが楽しい気持ちで新しい家族を迎えることができるようになってもらいたい。参加者もオンライン講座が初めての方が多かったのだが、家にいながら受講することができたので、良かったとの声をいただいた。

5 その他の事業

〔1〕 地域連携事業

なは防災キャンプ@てんぶす那覇

趣 旨：那覇市ぶんかテンプス館にて1泊2日の避難所擬似体験を行う。参加者は実際の避難を想定した上で所持品を準備・持参しての参加とする。実際の避難施設での避難所擬似体験を通し、施設の機能性を把握・共有することで、もしもの時の災害時対応力を身に付け、自助、そして共助の意識を育むことを目的とする。

期 日：令和2年10月10日（土）～11日（日）

時 間：15：00～翌12：00

場 所：てんぶす那覇・希望ヶ丘公園・那覇市平和通り商店街

対 象：関係者のみ

受講料：無料

定 員：特になし

参加延べ人数：41人

◇学習プログラム◇

【昼の部】10月10日（土）15：00～22：00

・防災関連ブースの出展

テントブース/那覇市防災危機管理課ブース/その他支援者体験希望者による自主出展

・防災さんぽ

【夜の部】10月10日（土）21：00～翌11日（日）12：00

・避難所への避難を想定し、各自の寝床づくり、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、自己完結形の夕食会を実施、また実際の避難所生活の実態についての講話を聞く、他。

・関係者とともにてんぶす那覇をまわり、災害時にどのような活用ができるかを問題提起していく。



【参加者の声】

- ・小規模だったので、人脈が増え、人との会話が楽しかった。勉強になった。
- ・私が住んでいるところから一番近く、大事があったときに共助の面で助けを求められる。

【まとめ】

新型コロナウイルスの影響で夏に予定していた、なは防災キャンプ@てんぶす那覇は10月までずれ込み。今年度初の開催となった。今回はてんぶす那覇を会場に開催し、防災関連ブースの出展を行なった。テンプス館の施設を歩きながら、災害時にテンプス館が観光客や平和通り商店街からの避難者を受け入れることができるのか、その時の課題を議論した。夜は避難所への避難を想定した1泊2日のキャンプを行なった。那覇市伝統工芸館の研修室にはダンボールトイレや避難所モデルルーム、防災危機管理課の非常時グッズの展示、外にはペット防災ブース、避難所テントの展示などを行なった。夜の部の宿泊ではペットを同伴しての参加者もいたことから、ペット同伴での避難所での過ごし方を擬似体験できる貴重な機会にもなった。反省点としては、新型コロナウイルスの影響で日程調整がうまくいかず、台風などの影響もあり、開催場所の調整に時間がかかったこと、当日の会場は運営方法も改善が見込めると思う。次回開催につなげていきたい。

なは防災キャンプ20講演会 地域と防災 | 地域・行政・専門機関との連携に向けて

趣 旨：イザ!という大型災害時、地域はどうなる? 「自助・共助・公助」というけれど、いったいどうすればいいの? 地域の些細な疑問などを防災の専門家のお二人をお招きして防災に対する理解を地域・行政の方々に理解を深めてもらうことを目的する。

期 日：令和2年11月3日（火）

時 間：14:00～16:00

場 所：那覇市若狭公民館

対 象：那覇市在住・在勤・在学者、関心のある方

受講料：無料

定 員：40名

参加人数：40人

◇学習プログラム◇

【第1部】

様々な災害現場で支援活動を行ってきた李仁鉄氏（にいがた災害ボランティアネットワーク理事長）をお招きして、平常時から取り組むべき連携体制づくりについてご講演いただきます。

【第2部】

防災士で災害ソーシャルワーカーの稲垣暁氏（（一社）災害プラットフォームおきなわ共同代表）が聞き手となり、沖縄の実情と照らし合わせながら地域と行政、専門家がどのような連携体制をつくるべきか深めていきます。



【参加者の声】

- ・コミュニティや災害に対する向き合い方など良い内容だった。
- ・新しい視点で「防災」について考えられた。

【まとめ】

地域の方々や那覇市社会福祉協議会、那覇市防災危機管理課の方など、日頃から地域と防災に関心がある方々が集まり、李 仁鉄 氏「にいがた災害ボランティアネットワーク」をお招きして地域が防災に取り組むにはどのようにすれば良いのか、行政や専門機関との連携をどのようにしていけば良いのかを講話してもらった。地域が連携して防災に取り組んでいくにはどうすればよいのかを、専門家の意見を交えながら地域、行政が互いに意見を交換できる場を作ることで、非常時にどのように連携をとることができるかを確認することができた。沖縄の文化取り入れた昔ながらの地域の良さを再度考え直して、防災に生かしていけるのではないかという意見には多くの参加者の考え方が変わったとの声が聞こえた。これから地域、行政と専門家で意見をすり合わせながら、地域独自の防災体制を構築できればと思う。

なは防災キャンプ20 冬 講演会

趣 旨：広域災害が起こった際の避難所のあり方について、曙地域をモデルに調査検証を行っている（一社）災害プラットフォームおきなわ から中間報告と全国の被災地にいち早く駆けつけ、災害ボランティアセンターを立ち上げる経験を重ねてきた李仁鉄氏からは、「いざという時に声をあげづらくなる方々への支援の在り方」や「支援を受ける受援力」について学ぶことを目的とする。

期 日：令和2年12月13日（日）

時 間：14：00～16：00

場 所：那覇市立曙小学校体育館

対 象：那覇市在住・在勤・在学者、関心のある方

講 師：李 仁鉄（にいがた災害ボランティアネットワーク理事長）

稲垣 暁（災害プラットフォームおきなわ代表理事）

受講料：無料

定 員：20名

参加延べ人数：12人

◇学習プログラム◇

防災の専門家のお二人を再びお招きして対象を曙地区に絞って講演。稲垣暁氏は曙小学校区で避難訓練・学校避難所ゾーニング検討などを行っており、中間報告もかねて「曙小学校区の災害リスクと資源」をテーマに講演を行った。李仁鉄氏はさまざまな災害現場のボランティア支援センター設置運営の経験から曙地区で災害が起きた際に起こりうる問題と課題。他の地域ではどのように解決したかをお話ししてもらい、参加者の防災に対する気づきを増やすようにする。



【参加者の声】

- ・地域との連携がやはり大切。
- ・災害時に行政は中間支援組織として動く考え方をもちることが必要。

【まとめ】

曙小学校区で災害リスクと資源について講演してもらい参加者と情報を共有した。災害時では交通渋滞が大きな問題になることが講師2人の共通のリスクとしてあげられた。交通の悪さから、パトカーや救急車の到着遅れや地域復興支援の際は、ボランティアスタッフの車が多くなると支援物資などを運ぶ緊急車両の遅れに繋がるとあかし、災害時は緊急車両専用の道などを作るような取り組みを作った方がよいと参加者へ呼び掛けた。地域特性を生かし、那覇新港やパチンコ店など活用できる点が多いことから、水路と陸路から支援を行うことができる。参加者から「どう地域と連携して災害時に支援を繋げることができるか」との質問に「社協や行政などは中間支援としての役割を担ってもらう」ことができるとの解答があった。地域との連携で、声をあげづらくなる方々への支援の在り方や支援を受ける受援力についての学びを達成することができた。

なは防災キャンプ21 春 研修会

趣 旨：広域災害が起こった際の対応や支援のあり方について、行政や自治会、まちづくり協議会など、災害時に支援者として役割を担う行政関係者や地域団体の地域連携をスムーズに行うための関係づくりと地域人材の育成を目的とする。

期 日：令和3年3月21日（日）

時 間：14:00～16:00

場 所：なは市民活動支援センター第1会議室（なは市民協働プラザ2階）

対 象：那覇市在住・在勤・在学者、関心のある方

講 師：李 仁鉄（にいがた災害ボランティアネットワーク理事長）

稲垣 暁（一般社団法人災害プラットフォームおきなわ代表理事）

受講料：無料

定 員：50名

参加人数：37人

◇学習プログラム◇

「にいがた災害ボランティアネットワーク」の李仁鉄氏から災害ボランティアセンター構築のノウハウを学びながら参加者と情報共有する。行政・市民の方など属性がバランスよく交わるように座り、それぞれの役割や課題を掘り起こし、気づいたことを話し合う。「一般社団法人災害プラットフォームおきなわ」の稲垣氏から沖縄での防災の取り組みの考え方を合わせて、支援者が災害時に担う役割について考える。



【参加者の声】

- ・災害時の連携の課題が明確になった。
- ・大規模災害時は行政だけでは対応できないので、日頃から地域の関係団体などの連携が重要であることを改めて認識した。

【まとめ】

災害時に支援者としての役割を担う行政関係者や地域団体の代表者を対象に行った。前半は「にいがた災害ボランティアネットワーク」の李氏より新潟や熊本、福島などの全国各地の被災地で起こった事例や困りごとを講話していただき、災害時の連携の重要性を情報共有した。その後、参加者が各テーブルに座り、それぞれの立場や住んでいる場所で災害時にどのような連携ができるのかを話し合いを行った。課題点や気づきを講師の李氏も同席しアドバイスを行った。後半は「一般社団法人災害プラットフォームおきなわ」の稲垣氏より避難所の運営に地域がどう変わるか、避難所に来ることができない人を誰がどう支えるか話し合いを行った。コロナ禍の中、避難所の人数制限などによって、避難施設の数が逼迫している状況を誰がどうやって周知するために誰が動かすのか、避難所にこれない高齢者や障がい者を誰が支えていくのか、個人情報保護法があるなか、どうやって情報を収集することができるのか、避難所運営職員が開設に間に合わない場合は誰が開設を判断するのかなどを日頃から話し合いが必要だという今後の課題も浮かんできた講座となった。

〔2〕 提案事業

アーティストと開発する社会教育プログラム

趣 旨：新型コロナ禍において、新しい生活様式を取り入れた地域コミュニティのあり方を見直す必要に迫られています。多層多様な人々が、その差異を保ちながら関わり合い、学び合う「社会教育」の機能を「アート」によって強化することで、ウィズコロナ時代における地域コミュニティの再構築を試みる。儀間朝龍さん、平良亜弥さん等県内アーティストとともに、地域活動を部活化した3つほどの「部活動」づくりに取り組み、地域コミュニティとテーマ型コミュニティの垣根を超えた新たなコミュニティづくりと参加した人々の創造性が発揮されるユニークな社会活動の持続化を目指す。

期 間：令和2年8月8日（土）～令和3年2月28日（日）

場 所：若狭公民館、あけぼの公園、曙小学校、ホテル アンテルーム 那覇

対 象：那覇市在住・在勤・在学

受講料：無料

学習プログラム

活動	実施日	協力者・団体	人数
ダンボール部	毎週月曜日	儀間朝龍	述べ 162 名
ユーチュー部	9月29日、10月13日、31日、 11月17日、12月22日	顧問：藤井光	述べ 64 名
ポストポスト部	毎週金曜日	顧問：平良亜弥	述べ 15 名
キックオフトークイベント	8月8日（土）	藤浩志、土屋誠一 上田	47 名
「アート×教育」トークイベント	11月28日（土）	藤浩志、土屋誠一 前田比呂也、翁長有希	35 名
東京大学公開講座「社会教育の再設計」シーズン2	1月22日（金）	牧野篤（東京大学）	133 名
成果発表展「つながるを、つくる。かかわると、かわる。」	2月5日（金）・6日（土）・7 日（日）	ホテル アンテルーム 那覇	202 名
成果発表ロビー展	2月15日（月）～2月28日（日）		148 名
アーティストトーク	2月13日（土）	土屋誠一、儀間朝龍 藤井光、平良亜弥	36 名



（まとめ）

アートな部活動によって創造力を刺激された部員たちは、今年度の事業終了後も自主的に活動継続を予定している。創造する喜びと達成感を共有する新たなコミュニティを形成することはできたが、今後も持続可能なものにするには、本事業で連携した個人や団体等と関係性をより一層深め、部員たちが自治的に活動を継続するためにもアーティストが伴走する期間が必要となる。また、社会教育を強化し、地域コミュニティのあり方を再興するという点においては、楽しいだけではなく、批評的思考を育むためのプログラムを設ける必要性も感じている。

オンライン学習支援プロジェクト

趣 旨：これまで毎年実施していた、大学生が小中学生の学習をサポートする「土曜朝塾」。長期の休校により学びの機会が失われた時にも子ども達の地域とのつながりを断絶せず、コロナ禍でも学びを止めない工夫を講じること、家庭内に閉じこもりがちなお子どたちに、オンラインにアクセスする環境を整えることで、第三者との交流や教育機会につなげ斜めの関係を作ることを目的とする。

期 間：令和2年10月17日（土）～12月26日（土）

時 間：14：00～16：30

場 所：若狭公民館 第1研修室

対 象：若狭公民館エリアの児童生徒

受講料：無料

参加延べ人数：274人

助 成：那覇市「新型コロナウイルス対応 市民活動チャレンジ助成事業」

◇プログラム◇

・土曜夕方勉強会

月	内 容	児童数	大学生
第1回	各自持参の宿題 サポート/アイスブレイク	6名	18名
第2回	各自持参の宿題 サポート/アイスブレイク	8名	14名
第3回	各自持参の宿題 サポート/ハロウィンパーティ	8名	15名
第4回	各自持参の宿題 サポート/環境について考えよう	10名	14名
第5回	各自持参の宿題 サポート/リズムを奏でよう	12名	14名
第6回	各自持参の宿題 サポート/日本のことについて知ろう	8名	13名
第7回	各自持参の宿題 サポート/自分の夢について考えよう	12名	16名
第8回	各自持参の宿題 サポート/お金の使い方について考えよう	14名	15名
第9回	各自持参の宿題 サポート/アクセル運動会をしよう	14名	13名
第10回	各自持参の宿題 サポート/きらきら輝く自分を探そう	11名	14名
第11回	各自持参の宿題 サポート/お楽しみ会/活動振り返り	12名	13名

・オンライン学習支援

実施期間：令和2年11月24日（月）～12月25日（金）平日の夜

参加数：大学生インターン／16名、児童／13名



【まとめ】

本年度は実施時間を午後に変更し大学生インターンによる対面授業と探求学習、「自律学習支援」を目的とし、1週間の学習計画を大学生と一緒にたて、小中学生自身で勉強する平日のオンライン授業も開催されPC機材とWifi端末の無料貸出も行った。オンライン学習での実施は初めての取り組みだったが、連携をしっかりとることで早い段階でオンライン学習になれば、機材破損等もなかった。

今後はICTを活用した学校と地域の連携による子どもたちの興味関心を引き出す学習の積極的な取り組みを行っていききたい。次年度も事業継続の必要性を大きく感じた。

オンライン学習支援フォーラム～オンライン学習の可能性と課題について～

趣 旨：GIGA スクール構想（1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを整備し、教育 ICT 環境を実現する）実現に伴い、今後オンライン端末への学習機会を生かしていける環境作りに対してさまざまな問題が懸念される。このフォーラムを通して、関係者がオンライン学習についての可能性と課題について話し合い、ビジョンを共有し効果的に取り組めるようにすることを目的とする。

期 日：令和3年1月30日（土）

時 間：14：00～16：00

場 所：若狭公民館から会議アプリ ZOOM を使用して配信

対 象：学校教育者・興味がある人・PTA

受講料：無料

参加人数：27人

助 成：那覇市「新型コロナウイルス対応 市民活動チャレンジ助成事業」

◇プログラム◇

《第1部》オンライン学習について「教育機関・民間団体の活動報告」

- ・那覇市 GIGA スクール構想への計画について 内間正樹（那覇市教育研究所）
- ・GIGA スクール先行実証授業報告 伊良波智也（那覇市立泊小学校）/仲村良虎（那覇市立城北中学校）
- ・わかさオンライン学習支援プロジェクト報告
田名真之（わかさオンライン学習支援プロジェクト外部アドバイザー）

《第2部》パネルディスカッション「オンライン学習の可能性と課題」

- ・コーディネーター 飯塚悟（株式会社プラズマ）
- ・パネリスト 玉城陽平（わかさオンライン学習支援プロジェクト外部アドバイザー）
宮崎柊人（学生団体 ACCEL）/由利玲子（那覇市立壺屋小学校 PTCA 副会長）
伊良波智也（那覇市立泊小学校）/仲村良虎（那覇市立城北中学校）
宮城潤（那覇市若狭公民館）



【まとめ】

GIGA スクール構想の実現に伴い、那覇市教育研究所では各校内の Wifi 環境整備に加え、職員への研修を行うなど段階的に取り組んでいることがわかった。しかし、ICT に詳しい一部の教員に負担が集中している現状があり、ICT 支援員を各学校に配置してほしいとの意見があがったが、人員確保や資金などの課題も多い。既存のオンライン教材を活用することで一人一人に合わせた学習指導が可能であること、フォローが必要な生徒にはリアルタイム形式のオンライン指導を行うことで効率的かつ効果的な学習指導が出来るという今後の活用可能性がみえた。学校現場の負担軽減とオンラインの可能性をさらに広げるために地域人材の活用など地域連携の必要性が話し合われた。

〔3〕 学社連携事業

出前講座ぼうさい体験会

趣 旨：毎年9月に開催している「リッカ！ヤールーキャラバン！」を体験してもらい、いざ被災してしまった時に自分や自分の大切な人を守るようにする。

期 日：令和3年3月3日（水）

時 間：8：40～10：30

場 所：天妃小学校

対 象：天妃小学校2年生

受講料：無料

定 員：なし

参加人数：82人

講 師：若狭公民館職員

学習プログラム

回	日 時	内 容	講 師	人数
1	3月3日	公民館紹介。「リッカ！ヤールーキャラバン！」のぼうさいプログラム7つを体験	若狭公民館職員	82人



（参加者の声）

- ・災害がおきた時にどうすればいいかよくわかりました。
- ・ヤールーくんの地震災害とクイズ、めちやくちゃ面白かったです。もっと地震のことを知りたいです。
- ・災害の時のために気をつけようと思いました。
- ・一番楽しかったのはヤールーくんを運ぶことです。ちょっと重かったけど頑張りました。ヤールーくんを運ぶとき、あまりヤールーくんを動かさないで、下の毛布を動かしてロールケーキみたいに丸めるところがいいです。それはチームワークが必要とわかりました。
- ・自分の身を守る訓練を教えてくださいありがとうございます。わたしも人助けをしたいです。
- ・お皿が割れたとき、チラシで作ったお皿を作って食べ物をのせて食べれるとしりました。
- ・ヤールー体操が楽しいし、地震が起きた時に役立つと知りました。
- ・箱の作り方を教えてくださいありがとうございます。
- ・若狭公民館にきたら、またいろいろ教えてね。

（まとめ）

生活の時間を使つての出前講座の依頼に応じた。公民館の仕事紹介からの防災体験は、子どもたちに自然な流れで防災に関心をもってもらえたのではないかと思います。小学校2年生ということもあり、クイズを楽しく学ぶことを意識した。「リッカ！ヤールーキャラバン！」にも来て欲しい。

成果発表会

成果発表会

趣 旨：新型コロナウイルス感染に伴い、例年行われていた公民館まつりは延期が決定。その代案として無観客での舞台発表を撮影・展示を行い、その様子を公民館ホームページに公開することにより、各サークル活動が活性化することを目的とする。

期 間：令和3年2月21日（日）

会 場：若狭公民館 3階ホール・若狭公民館ホームページ

主 催：若狭公民館利用団体連絡協議会

共 催：若狭公民館・図書館、NPO法人地域サポートわかさ

時間	団体名
09:30~11:00	ウクレレ サークル MiliMili
10:30~12:00	若狭島うたの会
11:00~12:30	ハワイアンフラ Hauolioli
	カメラセッティング 舞台→フロア
13:00~14:30	社交ダンスモダン若狭
13:30~15:00	わ・か・さ社交ダンスサークル



若狭公民館利用団体連絡協議会

成果発表会



(まとめ)

成果発表会は、若狭公民館利用団体連絡協議会が協議を重ねて、新型コロナウイルス感染拡大防止策をしながら、どうしても舞台・作品発表を行うことができるのか協議を重ね、無観客での舞台発表を撮影、編集、公開という初めての試みを行った。舞台発表に参加できなかったサークルは普段の活動の様子を紹介動画という形で視聴できるようにした。公開した動画は若狭公民館ロビーにて映像を流して、他のサークルや地域の利用者が閲覧できるように工夫した。他のサークルメンバーからは「他のサークルメンバーの様子をみることでいいね」「舞台発表会に参加することができて良かった」などの声もいただいた。ロビーには他にも成果発表会に参加したサークルの写真を展示したりして、サークルメンバー交流する姿があった。来年度は例年通りの公民館まつりが開催されるように再び協議を重ねていきたい。

成果発表会風景



舞台発表「若狭島うたの会」



舞台発表「ウクレレ サークル MiliMili」



舞台発表「ハワイアンフラ Hauolioli」



舞台発表「社交ダンスモダン若狭」



舞台発表「わ・か・さ社交ダンスサークル」



ロビー上映



無観客発表撮影様子



写真展示